

自己評価(ピーナッツ ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	千葉小倉運営理念「ご利用者様の安全・安心の確保/ご利用者様の個々のケアを大切にすする/サービスの質の向上」を実践している。16時の申し送り・出勤時に実施。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。町内の新年会など入居者様と参加。夏祭りに参加。散歩時には、挨拶をするよう努め交流をはかっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や見学等で介護の事で相談があった場合は介護相談を承っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事。事故報告・それに対するの対策・ホームの取り組みなど報告し参加されている方と意見交換を行なっている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者(ホーム長)・マネージャーが運び担当者様との話し合いを行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で全体に周知・話し合いをし、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束基礎研修に参加しスタッフにも参加を努め、日々虐待が見過ごされぬよう防止。スタッフ会議などで話し合いをもうけている。		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(ピーナッツユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者がいない為、学ぶ機会を設けていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族との面会を十分にとり重要事項説明書・ホームの取り組みを説明し不安・疑問点などなく納得されるよう十分な説明・理解の上で契約して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会で事前に日時を報告し参加して頂き、意見交換の機会を設けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議を毎月行い一人一人の意見・提案・疑問を聞く機会を設けている。いつでも聞き入れてくれる体勢が出来ている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に行なわれるスタッフ評価にてアドバイスを行なっている。それ以外の日々でも話しが出来る時間を作っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・資格を受ける機会の確保やホームでの勉強会も設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・リーダー会議・他事業所との合同行事・訪問・仕事以外に食事会を取り組み交流を深めている。		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(ピーナッツユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・相談の来られた際は、今の本人の思いや不安な事を含め直接本人に聞く機会をホーム長・ケアマネージャーを中心に努めている。必要に応じ何度も足を運びお話を伺い受けとめる努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・相談に来られた際は、御家族様の不安や求められている事を理解し、受け止める努力をホーム長・ケアマネージャーを中心に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族様がまず、必要とされている支援をその立場になり可能な限り対応を心がけている。他事業所と連携をとりその人にあった支援提供に結び付けられる努力をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として沢山学び、暮らしを共にする中で支えあう関係に努めている。畑作り・料理・生活の中で教えて頂ける機会を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・電話連絡等で情報を共有し支援にあたって協力関係を作るよう築いている。行事参加の呼び掛け・入浴介助・外食・受診など。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話の際には、話ができる環境を作っている。場所に関しても、その場へ行ったり外出の一部として支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いが円滑になる様、座席・日中は階同士・行き来したりレクリエーション活動・合同行事等の支援に努めている。		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(ピーナッツユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もかわらず関わり合いが持てるよう御家族様に話している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の言葉や思いをくみ取り、御家族様の話しを聞いたり、希望・意向の把握に努めている。日々の関わりの中で御本人の思い等を引き出せるようコミュニケーションをはかっている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを入居後も随時行なっている。御家族様と相談・情報を聞き住みやすい環境作り、暮らしの把握に努める。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・心身状態の把握・個人記録・日報・申し送りノート・情報交換に現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族様より希望・要望を聞き、ホーム長・ケアマネージャー・計画作成者・スタッフでユニット会議でモニタリング、全体会議で意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、ユニット会議で情報共有し介護計画に見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り希望・要望に応じた支援に取り組んでいる。		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(ピーナッツユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、民生委員と意見交換を行なっている。中学生に職場体験で交流の機会を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と連携体制も整っており月2回の往診、必要時には受診。医療を受けられる支援、御本人・御家族様の希望で今までのかかりつけの病院との関係を築いている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に毎週訪問して頂き、日常の関わりの中で変化があった事など情報・気づきを報告・相談をし助言を頂いている。24時間連絡がとれ指示・助言を頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を十分に行い、スタッフが見舞う様にしている。医師・看護師から指示・留意点を必ず聞く様努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人・御家族様・スタッフ・提携医で十分に話し合いの場を持ち、早い段階から支援体制を検討準備している。スタッフにも不安をあたえないよう終末期に向けたご利用者様の申し送りノートを作成している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを用意し、ホームでの勉強会を実施。救命救急の講習会に全スタッフが参加。個々の状態に応じての緊急対応は常日頃より、ホーム長・スタッフの間で申し送りのようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練。日中・夜間想定訓練。御家族様にも参加の呼びかけを行なっている。		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(ピーナッツユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについて、契約時に守秘義務について交わされている。尊重・プライバシーを損ねない声掛けや対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、御本人の思い希望を聞き支援している。買い物・散歩の提供。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし穏やかに過ごせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容の方が来て下さっている。毎日の整容・お洒落を支援。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一番楽しみにされている為、味つけ・彩り・食べやすい大きさ・かたさなど工夫している。庭の畑で採れた野菜も調理に使用している。行事の際は手作り弁当をホーム長を中心に作っている。片付けも利用者様・スタッフと一緒にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状態・医師への報告・指示によって栄養・水分の支援をしている。食事・水分量を一覧にし記録に残す。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の歯磨きの声掛け、口腔状態に変化があった際は、訪問歯科へ報告し診察して頂く。		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(ピーナッツユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導等する事でオムツや紙パンツの使用を減らすよう支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操・レクリエーション・散歩等で適度な運動を取り組んでいる。週1回便秘がちな方は、乳製品を購入している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	御本人の体調・意思を確認し一人一人に合わせた入浴を支援。入浴日でない方は足浴。水・日の入浴がない日は足浴実施。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の身体状況に応じたり、昼寝の時間を設けている。安眠がとれるよう適度な運動・日光浴も支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診結果表・申し送りノート・薬一覧表を見やすい所へ貼ったり、個々の薬ケースにも貼るなどスタッフが確認できるよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の仕事や役割を把握し、役割分担を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人より希望があったら出来る限り買い物に行かれたり、散歩、ドライブを兼ねての買い物など支援している。地域の観光スポットには、御家族様にも協力して頂いている。		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(ピーナッツユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーや希望ある際は、スタッフ同行しお金を所持したり、使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プレゼントなど届いた際には、電話や手紙でお礼が出来るよう支援をしている。正月は、年賀状を送っている。他ホームとの文通も始めている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口やリビング内には、季節に合わせた花や飾り付けをしている。入居者様に馴染みのある和テイストを取り入れたりしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下奥ベンチ・庭・1.2階の行き来などしたり利用者様の居心地の良い空間作りに努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様と相談しながら、居心地が良く馴染みある物、温かみのある居室作りを心がけている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立して生活が送れるよう安全面で工夫し声掛けの支援をしている。		